

アダルトチルドレンの恋愛観・結婚観について

榛沢 祐理恵

アダルトチルドレンとは一般に、子供時代に親から受けた虐待や育児放棄などのつらい経験がトラウマとなり、大人になった現在も何らかの生きづらさを抱えている人物のことである。本研究では、アダルトチルドレンのライフストーリーをもとに恋愛観や結婚観を明らかにすることを目的とする。

本研究では、参与観察と半構造化インタビューを研究手法として採用した。調査対象者は特定のアダルトチルドレン自助グループに参加する人の中から協力者を募るという方法で集め、8人の方にインタビューを行った。アダルトチルドレンという言葉は医学用語ではないため、専門家の間でも捉え方に揺らぎが存在する。そこで本研究では、アダルトチルドレンの定義を本人の自覚であるとして調査を行った。

アダルトチルドレンの恋愛観についての調査によって以下のことが明らかになった。まず、複数の調査対象者が共通して持っていた交際以前の特徴を2点挙げる。1点目は、好意を寄せる人物に対しての告白を避けていることであり、2点目は、好意を寄せる人物でなくても、相手に交際を迫られた場合、押し切られる形で交際していたことであった。続いて、交際中の経験談の中で多く語られたことは、パートナーへの依存であった。依存について語る調査対象者は多かったが、現在もパートナーに依存しているかどうかは、アダルトチルドレンと自覚してから経った期間の長さによって変わっていた。調査対象者の中で、自覚してから経った期間が長い人物は、パートナーに依存することがなくなっており、短い人物は、現在もパートナーに依存する可能性があった。

次に、結婚や子供について調査に対する考察を行った。未婚で子供のいない調査対象者はほとんど全員が結婚や子供に対して恐怖心を持っており、消極的であった。一方で、既婚の子供がいる調査対象者は、結婚する以前から、結婚や子どもに対して恐怖心を持っていなかった。このような調査結果を得た理由として、未婚の調査対象者は、アダルトチルドレンの世代間連鎖の知識があるため、自分の子供に対して、酷く当たってしまうのではないかという考えから、結婚や子供に対して恐怖心を持っていた。それに対し、既婚の調査対象者は、結婚する以前にアダルトチルドレンの自覚がなく、世代間連鎖の知識を持っていなかったことが関係していると考えられる。

本研究では、アダルトチルドレン個人が持つ、恋愛観や結婚観に触れることができた。しかし、調査においてはモデルストーリーに沿った語りを聞くことが多かった。そのため、今後はアダルトチルドレンの恋愛観や結婚観について、モデルストーリーに沿わない、オルタナティブなストーリーを捉えていく必要がある。

(指導教員 照山絢子)